

第4回 Pitch to the Minister 懇談会“HIRAI Pitch” 議事概要

1. 開催日時・出席者等

- 日時：平成30年11月13日（火）10：45～11：45
- 場所：中央合同庁舎8号館10階 平井国務大臣室
- Pitch テーマ：AI技術による社会変革
- 招へい者：杉山 将 国立研究開発法人理化学研究所 革新知能統合研究センター長
- 出席者：平井国務大臣、左藤副大臣、安藤大臣政務官、三輪 CIO、高田宇宙開発戦略推進事務局長、大坪次長（健康医療）、黒田大臣官房審議官（科技）、新田参事官（科技）、八山参事官（IT）、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 杉山センター長からの説明

- 理化学研究所革新知能統合研究センターは設立2年で総勢680名となっている。理論研究を行う汎用基盤技術研究グループ、理論研究と応用の橋渡しを行う目的指向基盤技術研究グループ、人工知能の社会的影響を分析する社会における人工知能研究グループ、の3つから構成される。また企業との連携センター等にて、30社を超える企業と連携し、社会実装を推進している。
- 現在の人工知能研究は、教師付き学習、教師なし学習、強化学習、の3分野が中心となっている。機械学習の重要な国際会議であるICML、NIPSではこの5年で参加者が5倍以上に増えて、非常に活発であり、米国と中国からが特に多くなっている。
- これからの日本が取り組むべき課題として、日本発の新しい技術により人工知能革新を主導、日本が強い分野との真の融合、ビジネス・政治・経済分野も含めたAI人材の育成、が重要であると考えている。

3. 主な質疑応答・議論

- 日本人特有のきめ細かさなどのメンタリティに焦点をあて、人間の曖昧な要求の解釈などの日本人の特性にあったデータの取り方や活用方法をAIに取り入れることで、日本独自の技術として世界に発信していけないのではないかとの意見があった。
- 健康医療分野におけるAI活用は、具体的な目的・活用方法やその効果などAIにより実現できること、及びそのために必要となるデータの問題を整理することで、AIで活用可能な良質なデータを特定し、獲得・蓄積することにより社会実装が加速されるのではないかとの意見があった。

○自動運転における AI 活用は、SIP の取り組みなどを通じて海外企業との連携や標準化を推進し、日本で生まれた技術をグローバルに広く使って頂くことで、日本の国際競争力強化につなげていけるのではないかとの意見があった。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)